

1. 平成31年・令和元年度 科内目標

《業務目標》

1. 千葉市地域包括ケアシステムへの協力。
国の推進している地域包括ケアシステムを市職の療法士として千葉市の取り組みに協力する。
病院主催の公開講座や地域住民主催の地域活動に協力し、市民の健康維持増進に貢献する。
2. 院内の取り組みへの協力
①認知症院内デイケアの実施。 ②褥瘡対策への協力：離床・ポジショニングによる褥瘡予防の推進 ③切迫早産、産後のための産前リハビリ教室の開催
3. 休日リハビリ対応の継続
月曜日から土曜日まで充実したリハビリテーションを提供する。土曜日と平日直後の祝日は4名体制、休日後の祝日は3名体制として、日曜日以外は連続したリハビリテーションを提供。
4. 他部署との連携強化の継続
病棟毎に担当療法士を配置し、医師・看護師・その他のスタッフとの窓口となり、回診への同行、カンファレンス開催、退院調整時の情報共有など更に密接な関係を継続。

《数値目標》

1. 患者件数の増加 30年度の実績14,000件以上を目指す。
2. 療法士1人あたり、1日算定単位数の年間平均を18単位とする。
3. 業務の効率化を図り、時間外勤務時間数の是正を図る。一ヶ月1人10時間以下を目指す。

2. 診療体制（施設基準・特徴・臨床活動）・スタッフ

当科は、外来スペースにリハビリ室1(81.0㎡)と言語聴覚室(10.62㎡)、4階病棟に病棟リハビリ室2(32.63㎡)を設けている。

施設基準

脳血管疾患等リハビリテーションⅡ
廃用症候群リハビリテーションⅡ
運動器疾患リハビリテーションⅠ
呼吸器疾患リハビリテーションⅠ
がん患者リハビリテーション

スタッフ 11名

医師 1名
理学療法士 6名
作業療法士 2名
言語聴覚士 1名
事務補助員 1名

リハビリテーション部門として、月曜から土曜日まで連続したリハビリテーションを提供している。

術後や入院早期から離床を促し、疼痛コントロール、廃用症候群の予防、機能維持・改善、生活に必要な可動域や筋力の獲得、生活動作獲得、応用動作の指導を行っている。

病棟担当療法士を配置して、医師回診や病棟カンファレンスに積極的に参加し他部門との連携を密に図りながら個々の患者に合った対応を行っている。

3. 年間統計

表1, 2019年度診療科別
リハビリ提供件数

診療科	延べ件数
内科(消化器等)	5891
外科	4276
新生児科	1439
小児科	1135
循環器内科	588
整形外科	376
産科・婦人科	328
その他	105
合計	14138

(件)

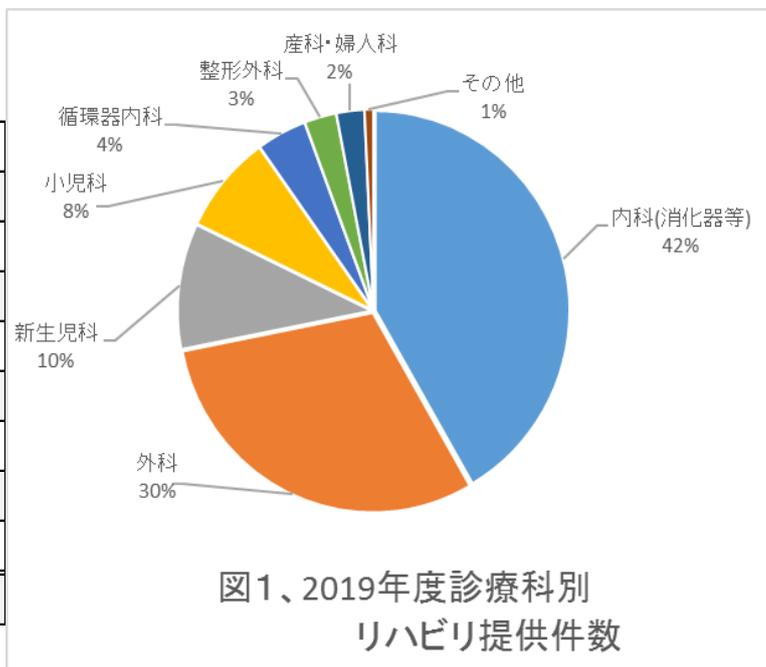
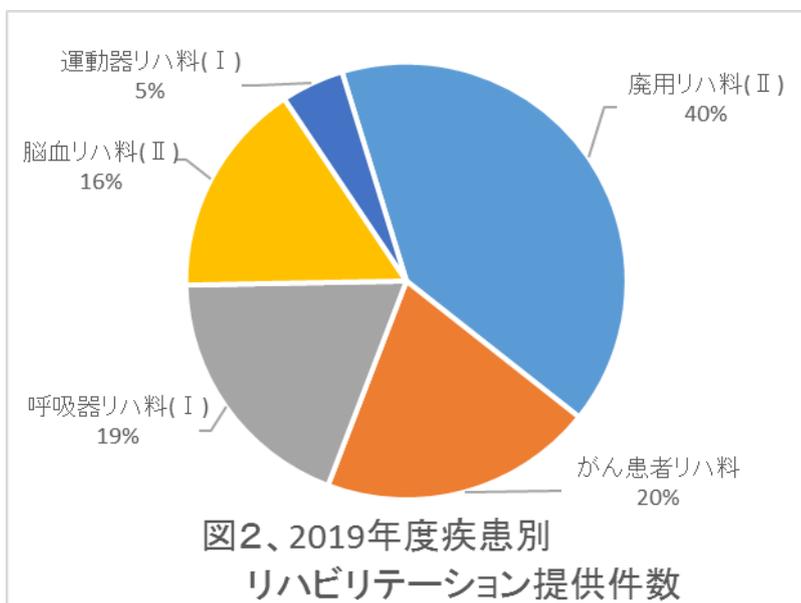


表2, 2019年度疾患別
リハビリテーション提供件数

疾患別リハ	延べ件数
廃用リハ料(Ⅱ)	5713
がん患者リハ料	2842
呼吸器リハ料(Ⅰ)	2674
脳血リハ料(Ⅱ)	2257
運動器リハ料(Ⅰ)	652

(件)



4. 1年間の総括

2019年度は、2018年度から協力を続けている千葉市の地域包括ケアシステム、自立促進ケア会議への療法士の助言者派遣協力の継続を行い、千葉市6区で行われた計11回のケア会議の全てにPT・OT、1名ずつを派遣し、33ケースの助言を行った。また、千葉市リハ・パートナー登録施設として、近隣の地域で行われている介護予防に資する通いの場への運動指導や助言の療法士派遣協力も行った。更に海浜病院主催で6月と9月に行われた市民公開講座にリハビリテーション科として講師3名を派遣して開催した。これらにより地域住民、地域で自立生活を営む人、自立をサポートしている地域スタッフにも貢献できたと感じている。

院内の取り組みとして、認知症院内デイケアが開始され、リハビリテーション科では作業療法士が専門性を活かし、認知症患者への重要な関わりを担っている。

業務の効率化を図るため、今年度より事務補助員を採用し、数値実績でも件数、単位数とも前年より高い実績を収めている。

数値実績では、今年度は全体の患者件数が14,138件に増加し、昨年より14,060件を上回り、目標を達成。療法士1人1日の単位数についても、今年度平均は17.8単位で、目標の18単位にはとどかなかったが、昨年より17.4単位を上回って目標に近づいている。

時間外業務時間数の是正は、前年度の総計1,043時間(1人1ヶ月10.9時間)から、今年度は1,343時間(1人1ヶ月15時間)と大きく目標から遠ざかる結果となった。

2019年度は、8/1から作業療法士1名の退職者が出た中で、昨年以上の患者件数に対応した結果、時間外時間の増加に繋がった。更にマンパワー不足に対処する為、休日リハビリの出勤者を土曜出勤4名から3名に、祝日出勤を3名から2名に減らし、休日の患者対応を減らして対応する事になってしまった。

5. 今後の目標

千葉市の病院・市職の役割として、千葉市地域包括ケアシステムの推進への協力を継続し、院内の今後の発展に向けた取り組みを進める。

- ・千葉市自立促進ケア会議の協力
- ・千葉市地域リハビリテーション活動支援事業への協力
- ・院内・院外公開講座の開催、協力
- ・認知症院内デイケアの協力推進
- ・褥瘡対策に伴う離床・ポジショニングの推進を継続
- ・切迫早産、産後のためのリハビリ教室の開催実現
- ・院内腰痛予防運動の推進